

翼

未曾有の大災害

町長 佐藤 晴彦

未曾有の大災害、東日本大震災から1年4ヶ月が過ぎた被災地を山武郡市町会主催の行政視察に参加して、海・川を有する当町の防災に対して新たな思いを、そして新たな使命を感じて帰町いたしました。

今回の視察では、大船渡市長・陸前高田市長そして3人の実際に被害に遭われた方々から直接お話を伺えましたので、町民のみなさまにも被災地の現状の一端をお知らせしたいと思います。

最初に訪問したのが大船渡市でした。ここには山武市職員で、当町鳥喰在住の野坂さん(男性)が山武市から派遣されており、彼の頑張りに大船渡市長から感謝のお言葉をいただきました。当町でも昨年7月に、図書館に勤務する宮内という男性職員を陸前高田市に復興支援のため派遣しましたが、改めて被災地の人たちだけでなく国全体で災害からの復興を支援していかねばならないと、強く感じさせられた場面でございました。

ここには、昭和35年に起きたチリ沖地震による津波で亡くなられた86名の犠牲者に関する碑が高台の神社に設置されています。

次に訪問したのが、特に大きな被害を被った陸前高田市のプレハブの市役所で、事前

の約束が無いにもかかわらず、お忙しいところ市長自らご説明をいただきました。復興特区と位置づけられながら、法律の規制や国の対応の不味さなどで、復興計画がなかなか目に見えない中、住民の生活や気持ちの思い、心を痛めておられました。その後、店舗と自宅を流されながらもすでに新たな店舗で、理容店を再開した女性(40代)にご案内いただき、壊滅的被害を被った市役所跡地にて、正面に設置された焼香台に線香を手向け亡くなられた方々のご冥福を祈り手を合わせてまいりました。数十名の職員が命を落とされた現場はそのままになっており、玄関ロビーにそのままにされた自動車により当時の津波の凄まじさが伝わってまいりました。被災者でありながらその女性は積極的に仮設住宅にいらっしゃるの面倒をみて、ボランティアの方々適切な指示を出しながら、故郷の復興に頑張っておられました。

その後訪れた南三陸町では、地元漁師さんから、「海岸から500メートル以上離れていた方は家と一緒に流されてしまった」とのお話を伺い、災害対策に絶対ということはなく、もしかしたらという気持ちを持ち、常に慎重に素早く行動することの大切さを感じさせられました。

最後に訪問したのが、宮城県石巻市にあり、海岸から4

ける姿にただただ無言の私たちでした。

キロメートルも離れている大川小学校です。74人の子供たちが流され、今なお4人の方が見つかっていない、北上川の脇にあった小学校で3人の娘を一度に亡くした保護者の方から言葉にできない悲しみの気持ちを綴った手紙を手渡され、まだ釈然としない気持ちを伝えていただきました。

結びに、東日本大震災で亡くなられたみなさまのご冥福と一日も早い被災地の復興をお祈りいたしますとともに、更なる安心安全のために努力を重ねてまいりますので、今後も、町民のみなさまのご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

昇降口前にはきれいに手入れされたたくさんの花が植えられ、いまだ帰らない子供たちへの道しるべとして川のほとりにはヒマワリがきれいに並んで咲いていました。正門前に作られた碑には、遺族と思われる方々が次々に花々と線香をたむ



▲石巻市 大川小学校前の献花台